

## 大阪府内主要製造業と地域分布について

### 1. 大阪府内主要製造業

大阪府内製造業で、第1位の業種は、事業所数で「金属製品製造業」、従業者数と出荷額で「一般機械器具製造業」、付加価値額で「化学工業」となっています（4-1～3. 産業中分類別事業所数、従業者数、製造品出荷額等参照）。出荷額の特化係数でみると、「繊維」「衣服」「金属製品」が高いことが特徴となっています（4-5. 製造品出荷額等の特化係数）。大阪府内製造業には、機械金属関連工業、化学工業、繊維工業などの産業がバランスよく備わっています。

### 2. 機械金属関連工業

金属製品や一般機械などの機械金属関連工業（プラスチック製品製造業を含む）には、小規模な企業が多く、特定の地域に集積しています。府内では、大阪市東部（東成区、生野区、平野区）から東大阪市、八尾市にかけての大阪東部地域が最大の集積地域となっており、府内の4割近くの事業所が集中立地しています。集積地内では、プラスチック成形業、伸線業、電気めっき業、熱処理業など多岐にわたる業種がみられます。これらの工場は、伸線業のように生駒山のふもとで溪谷の水力（水車）を動力とするなどして、地元で起こったケースがありますが、プラスチック工業へと発展したセルロイドのように、大阪市の中心部から移転してきたケースも多くあります。また、昭和40年代から50年代には、創業に手頃な家賃と広さの貸工場が増えたこともあり、創業が増加しました。

大阪府内には、そのほか大阪北東部地域（大阪市鶴見区・城東区、守口市、門真市、大東市）、大阪北部地域（大阪市西淀川区・淀川区、豊中市）にも、機械金属関連工業の集積がみられます。

### 3. 化学工業

化学工業の出荷額が一般機械器具製造業に次いで多い理由は、高度経済成長期に造成された堺・泉北臨海工業地帯（堺市・高石市・泉大津市の一部）に大規模な化学工場が立地しているためです。

また、大阪市中央区の道修町周辺では、江戸時代には薬種問屋が集積しており、明治に入ってから医薬品工業もはじまりました。現在でも、大手医薬品製造業の本社が立地しており、工場も大阪市内や東大阪市内に立地しています。一方、塗料製造業は、戦前から、原料となる油脂や天然樹脂がアジアから調達されており、主要需要先であった造船業が西日本に集中していたことから、淀川や神崎川沿岸に発達しました。

### 4. 繊維工業

大阪府内には多様な地場産業があり、その中には、繊維や衣服・その他の繊維製品が多く含まれます（3-4. 地場産業の業種別事業所数・出荷額）。これらの産業は、古くから綿作地帯であった泉州、河内地区で発達し、特に、泉州地域に多くの産地が形成されています。例えば、毛布は、泉大津市と忠岡町に集中的に立地し、わが国唯一の産地を形成しています。タオルについては、愛媛県の今治産地と並ぶ二大産地を形成しています。また、横編ニットや綿スプ織物についても、泉州地域に多く立地しています。これらの産業は、産地内で高度な社会的分業体制を構築しています。